

主 題：苦しみも喜びに変えられる2

聖書箇所：ペテロの手紙第一 4章17－19節

クリスチャンの歩みは主に従うほどに困難を経験しますが、その中にあっても私たちは喜んでいることができるのだとペテロは教え続けています。苦しみは喜びへと変えられます。たとえその問題が取り除かれなくても。そのようなみわざを私たちのうちに主が成してくださるのです。そのために私たちは何を知らなければならないのかを前回学びました。4：12－16からその五つの秘訣を学んできました。もう一度簡単に見て行きましょう。

A. 苦しみの中でも喜べる秘訣は？

1. 苦しみは主によって与えられたものである

12節bに「何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく」とあるように、起こってくることすべては偶然ではなく、すべてのキリスト者に必要であるから与えられるのです。

2. 苦しみには目的がある

12節aには「あなたがたを試みるために」と、苦しみは実はあなたのためであると言います。それによって私たちがよりキリストに似た者へと変えられて行くのです。信仰が成長するのです。そのために神は敢えて苦しみを与えられるのだと言います。

3. 苦しみは特権である

13a節「むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから」、苦しみは救いと同様に神からの恵みの贈り物として与えられると教えています。なぜ特権なのでしょう？

- ・ 人のためである＝福音宣教の働きによって救われる人が起こされて行きます。私たちが苦しみの中でも主を見上げて歩んで行くなれば、周りの人はそれによって救いへと導かれて行くのです。
- ・ 神のためである＝神からいただいた務めを神の力によって為してゆけるから、困難にまさる喜びがあります。苦しみにあっても喜んで生きている私たちの生き方が、人々の前に大きな証となるのです。そのように成してくださるのは私たちが信じている神だからです。
- ・ 教会のためである＝クリスチャンの忠実な歩みによって神のみわざが明らかにされてゆきます。それを見るクリスチャン、教会の皆も励まされて教会全体が成長して行くのです。

4. 苦しみには報いがある

13b節「キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」、私たちは今このときも喜べるし、神の前に立ったときにもすばらしい祝福をいただきます。将来を待望して生きて行けるが、今このときも喜びをもって生きてゆけるのだと、ペテロは教えるのです。

5. 苦しみは証の機会である

14節「もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、」とペテロはその理由を述べます。「神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるから」と。ちょうどあの神殿が、あのシナイ山が主の栄光に満ち溢れたときに、人々がそこに主がおられることを見たように、神は私たちのうちにそのような働きを成してくださるというのです。神の栄光で覆ってくださるのです。そして、神のすばらしさが明らかにされて行くのです。

だから、ペテロは言います。様々な苦しみがあるけれどあなたはその中にあって正しいこと、神に喜ばれることを選択してゆくようにと。「神を崇めるにはどうすればよいか」を考えて、語り、行動しなさい、それがキリスト者であるからと言います。「キリスト者」とはキリストに従う者です。だから、どんなときにも主に忠実でありなさいと教えるのです。

今日は後半17－19節を見て行きましょう。ペテロはここでも読者たちを励まそうとします。二つのことをもって励まします。

B. ペテロの励まし 17－19節

1. 神のさばきの現実 17－18節

ペテロは神のさばきは実際にあることを教えて人々を励まそうとします。その当時も今も、なぜ神はさばきを下されないのか、こんなに悪が横行しているのにそれに対して何も起こらない、そのような様子を見ていると、なぜこのようなことが放って置かれるのか？許されるのか？…と思い、神のさばきはほんとうにあるのだろうか？と迷ってしまいます。そのような思いを抱いていた読者たちに、ペテロは

必ずさばきは来るのだと教えて行くのです。神の約束どおりさばきは訪れる、だから、怯むことなくこれまでと同じように忠実に歩み続けて行きなさいと励ますのです。

17節「**なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。**」。「神の家」とは信者のことです。地域に存在するいろいろな教会、建物ではなくて、イエス・キリストを信じたときにすべてのクリスチャンが属する目に見えない教会のことです。パウロはこのように教えています。Iテモテ3：15「**神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。**」と。また、ヘブル3：6では「**しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。**」とあります。ですから、「神の家」がクリスチャンを指していることを私たちは知るのでした。では、「さばきが神の家から始まる」とはどういうことでしょうか？クリスチャンたちのさばき、クリスチャンも救いを拒んでいる人と同様のさばきを受けるといえることでしょうか？ペテロはそのようなことを教えていません。

◎「**さばき**」＝このことばは審判、判決、決定、結論という意味を持ちます。これは裁判長から下る判決、罪に定めるとか有罪の判決というのではなく、その判決に至る過程を意味することばです。最終的に刑が言い渡されるまでの説明のことです。それによって私たちはどのような判決が下るのか、有罪であることが分かります。神はまったく罪汚れないお方です。罪を放って置かれぬ、必ずその罪をさばかれます。神の正しいさばきが下る日が来るのです。それが来る証拠がどこにあるのかについてペテロは教えているのです。クリスチャンに対するさばき、それが証拠だと言います。必ず神のさばきはやってくる、すべての人に対する審判が下る日が来る、その証拠はクリスチャンがもうすでにさばかれていることにあると言うのです。

◎「**始まる時が来ている**」＝このことばも大切です。もうすでに始まっていることを教える動詞が使われています。その出来事はすでに始まっているのです。神の定められた目的＝罪を正しくさばくという目的が成就するその時がもう来たのだということです。人間の罪は必ずさばかれると神は約束されてきました。それがもう成就したということです。キリスト者の苦しみこそその始まりであり、それはもうすでに始まっているということです。

17節後半から「**さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょう。：18義人がかろうじて救われるのだとしたら、神を敬わない者や罪人たちは、いったいどうなるでしょう。**」と記されています。このみことばを理解するために、ペテロがこのみことばを書いているときに彼自身の頭の中にあった二つの旧約聖書のみことばを見てみましょう。それによって、ペテロが何を考えていたのか、何を言いたかったのかが鮮明に見えてきます。

その一つは、エゼキエル書9：1－6「**この方は私の耳に大声で叫んで仰せられた。「この町を罰する者たちよ。おのおの破壊する武器を手にとって近づいて来い。」**：2 見ると、六人の男が、おのおの打ちこわす武器を手にとって、北に面する上の門を通過してやって来た。もうひとりの人が亜麻布の衣を着、腰には書記の筆入れをつけて、彼らの中にいた。彼らははいつて来て、青銅の祭壇のそばに立った。：3 そのとき、ケルブの上にあったイスラエルの神の栄光が、ケルブから立ち上り、神殿の敷居へ向かった。それから、腰に書記の筆入れをつけ、亜麻布の衣を着ている者を呼び寄せて、：4 主は彼にこう仰せられた。「町の中、エルサレムの中を行き巡り、この町で行なわれているすべての忌みきらいすべきことのために嘆き、悲しんで人々の額にしるしをつけよ。」：5 また、私が聞いていると、ほかの者たちに、こう仰せられた。「彼のあとについて町の中を行き巡って、打ち殺せ。惜しんではならない、あわれんではならない。：6 年寄りも、若い男も、若い女も、子どもも、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、あのしるしのついた者にはだれにも近づいてはならない。まずわたしの聖所から始めよ。」そこで、**彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。**」。神がエルサレムの罪に対してさばきを下そうとしておられたのです。そのために集められた者の中に亜麻布の衣を着て、腰に書記の筆入れをつけた者がいました。その者に主が何を言われたのか、「これから出て行って町で行なわれている様々な忌みきらいすべきこと、罪を見て悲しんでいる人々の額にしるしをつけよ」ということです。同時に、この町をさばくために集められた者たちのあとについて行って、しるしのついていない者を滅ぼせと、このような命令が与えられたのです。ここに二つのさばきがあることを覚えてください。しるしのついていない人についていない人に対するものです。ついていない人にはさばきからの解放があり、ついていない人たちにはさばきが下ったのです。神の異なった取り扱いがあるということを見ます。同時に6節を見ると、「**まずわたしの聖所から**」そのことを始めて行きなさいとあります。つまりこのさばきは神殿から始まり外へと広がって行くのです。このエゼキエル書で言われていることがペテロの言っていることと非常に似ていることに気づきます。もう一箇所、マラキ書を見ましょう。3：1－5「**見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている。**」と万軍の主は仰せられる。：2 **だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現われるとき立っていられよう。まことに、この方は、精練する者の火、布をさらす者の灰汁の**

ようだ。：3 この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粋にする。彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり、：4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせる。：5 「わたしは、さばきのため、あなたがたのところに近づく。わたしは、ためらうことなく証人となり、呪術者、姦淫を行なう者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人をしいたげ、やもめやみなしごを苦しめる者、在留異国人を押しつけて、わたしを恐れない者たちに、向かう。——万軍の主は仰せられる。——」。ここでも二つの異なった神の取り扱いが見られます。神殿の中に主がやって来られる、そして、この主は精錬するのです。精錬する者の火、この火によって人々はきよめられるというのです。そして、主のまえに喜ばれるいけにえをささげて行くと、2－4節にあります。しかし、5節にはさばきがあり、その最後に「わたしを恐れない者たちに向かう」とあります。ですから、ある人々には神は彼らの中に働いて彼らをよりきよくして行く、精錬して行くという働きをされ、ある人々に対しては彼らの罪をさばくと教えているのです。「神のさばき」は神殿から始まって神殿の外へと広がって行くのです。そしてまた、信者へのさばきと未信者へのさばきを見ることができます。

これらのことを覚えながら、もう一度ペテロの手紙に戻って見ましょう。恐らくペテロはこれらのみことばを知っていた上で、4：17を記したのでしょう。17節cに「**神の福音に従わない人たちの終わり**は、どうなることでしょう。」とあります。ここでペテロは二つのさばきを言っています。まず私たちからさばきが始まるとしたら、神の福音に従わない人たちの終わり、彼らに対するさばきはどうなるでしょうというのです。異なったさばきが存在することを教えるのです。

二つのさばき＝17節では「私たち」と「神の福音に従わない人たち」が比較されています。そして、18節を見ると「義人」と「神を敬わない者や罪人たち」が比較されています。二つのグループ「私たち・義人」と「神の福音に従わない人たち・神を敬わない者や罪人たち」に対する神の異なった取り扱いがあるというのです。「私たち、義人」とは信者のことです。

1) **信者へのさばき**＝これはキリストのさばきの座のことではありません。天におけるさばきではなく、この地上でのことです。クリスチャンへのさばきとは「罪をきよめる」ということです。さきのマラキ書で見たとおり神は「精錬する火」であるとありました。また、4：12には「燃えさかる火の試練」とあります。同じ1：6、7には「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならないのですが、：7 信仰の試練は、火を通して精錬されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」と、信仰の試練は精錬であるとあります。2：5、9にはクリスチャンがどういう者であるかが書かれています。「あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。」、「：9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」、「聖なる祭司として」、「王である祭司」とあります。信者への神のさばきは祭司、レビ人、神に仕える者たち、すなわち、クリスチャンから始まって行き、それは彼らをきよめて、彼らがきよいいけにえを捧げてゆくため、彼らをきよめるための訓練なのです。そしてこの働きを神はもう始めておられるのです。この**信者をきよめるための神のわざ**というのを具体的にみると、(1) **信仰ゆえに経験する様々な苦しみ、迫害**です。それらはすべて神の計画のうちにあって、私たちが成長するため、私たちがますますキリストに似た者へと変えられてゆくためのものです。(2) **罪を犯したとき、罪から離れ再び神の前を正しく歩むようになるために与えられる懲らしめ**です。私たちが罪の中にあるとき、神は正しい方向に戻るようにと働いてくださる、それを懲らしめといいます。私たちがその罪から離れてよりきよい者になるようにと働かれるのです。ヘブル人への手紙12：5－12でそのことを教えています。「そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。：6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」：7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。：8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。：9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないのでしょうか。：10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。：11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるのですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。：12 ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。」。私たちの益のためにご自身の聖さにあずからせようとして懲らしめられるのです。これが信者へのさばきだとペテロは教えるのです。私たちがよりきよい者となるために、より主に喜ばれる者とするために成される神のみわざです。

18節を見ると「**義人がかろうじて救われる**」とありますが、これも同じことです。救われても救いを失うことがあるのかも知れない、とそのようなことを教えているのではありません。信者から救いが失われることはありません。「義人」とは神の前に罪を赦された者たち、永遠の救いに与った人たちのことです。そして「かろうじて救われる」というのは、罪からの救いではなく、クリスチャンが日々犯す様々な罪に対して神が懲らしめを与えられる、その懲らしめを通して私たちをよりきよい者へと変えて行こうとするその働きのことです。ですから、ペテロが教えるのは、信者に対するこのような神のさばきはもう下されているということです。今までも常に私たちのうちにこのような働きが神によって成されていることは明らかです。

2) 未信者へのさばき=みことばは同じようにクリスチャンでない人についてのさばきも教えるのです。彼らに対するその火はきよめるためではなく、さばきであり、神の厳しい刑罰が下るものです。永遠のさばきです。火と硫黄の燃えているところで昼も夜も永遠に苦しみ続けると聖書は約束しています。地獄に入った者が心から悔い改めとしても、神はそれを赦してくださるとは教えていません。救いのチャンスは生きているこの地上においてしかないのです。神が備えてくださった救いを自分の意志で拒み続けている人は、神が警告しているこの地獄へと行きます。なぜこのようなきびしいさばきが約束されているのか、それは彼らが神の敵だからです。17節の「**神の福音に従わない人たち**」、18節の「**神を敬わない者や罪人たち**」とある人たちのことです。神は私たち罪人を救うために救い主を送り、その方を私たちの身代わりに十字架で殺し、三日目に死からよみがえらせるという、そのみわざをもって救いを完成してくださったのに、彼らは自分の意志で主を拒み続けているのです。まことの神について考えないし、神を敬うこともないのです。創造主でない偽りのものを神として崇拝しまことの神を冒瀆しているのです。創造主がおられることは明らかです。みことばはそのように教え、人間はそのことをもう知っていると言います。人間は神に似た者として造られたから私たちは神を求めるのです。しかし、その創造主である神を認めようとしない、そのような罪を犯し続けているゆえに、そのさばきは永遠の地獄だと教えているのです。18節に「**神を敬わない者や罪人たち**」と記されていますが、これはある人たちを表わす形容詞です。「罪人たち」の前には冠詞がありません。というのは同じ人たちを指しているからです。この人たちがどういう人たちであるかを教えるのです。彼らは神を敬わないし、神に逆らい続けている罪人で、彼らは神に不従順で神の家であるクリスチャンを迫害し、福音を嘲り軽蔑しているといえます。この18節のみことばをペテロは旧約聖書の箴言11：31から引用しています。70人訳というヘブル語をギリシャ語に翻訳したものから引用して、ペテロは再び、神の備えられた救いを信じ受け入れない人が向かっている、恐ろしい永遠の破滅への警告をするのです。「**もし正しい者がこの世で報いを受けるなら、悪者や罪人は、なおさら、その報いを受けよう。**」と。

⇒ 神は罪赦されたキリスト者の罪も放っておかれずに懲らしめを与えるお方です。では、神の恵みを受け入れることなく拒み続け、逆らい続けている神の敵である未信者の罪に対するさばきはどれほど厳しく容赦のないものか、ですから、クリスチャンに対する神のさばきがクリスチャンでない者へ確実に下るさばきを約束している、そして、もうこのさばきはクリスチャンのうちに始まっており、それが完成する日が必ずやって来るということです。

ペテロは確実に起こるさばきを教えることによってクリスチャンたちを励まそうとしました。必ず神の審判は下るのだから、あなたの責任は今日神の前に正しく歩み続けて行きなさいと言います。

2. 忠実であるように 19節

19節「**ですから、神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は、善を行なうにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せなさい。**」。ペテロが励ます二つ目のことは、さばきが近いから忠実でありなさいということです。忠実であるために彼は二つのことをここで教えます。

1) 神のみこころは最善である

だから、忠実であり続けるようにと教えます。「**神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は**」、あなたが今受けている苦しみは神のみこころであると言うのです。私たちが苦しみに会ったときに考えなければいけないことは、それが神が私の罪を示して私を正しい方向に導くために与えてくださる懲らしめなのかどうかです。懲らしめなら、その罪を悔い改めて正しい方向に戻ることです。しかし、罪を告白しながら神の前を正しく歩んでいる私たちクリスチャンがなお熱心に歩もうとすると、いろいろな苦しみがやって来る、そのとき考えなければいけないことは、それはすべて神のみこころなのということです。神がよしとされ、神が私のためにそれを与えてくださっているのだと。これはもうすでに見てきたことです。12－16節で見た五つの秘訣です。ゆえに、私たちは主のわざに期待し、主に信頼を置き続けるのです。「この苦しみの中にあってもうろたえることなく、主を信頼して忠実に歩み続けさせてください」と願うのです。イエス・キリストがこの地上で父なる神に忠実に歩まれたその歩みを

模範として私たちも主を信頼して歩むことです。

また、「**善を行なうにあたって**」とあります。この名詞は新約聖書の中にここにだけしか出てきません。苦しみの中忠実に服従し続けることを意味することばです。ペテロが言いたいことは、いろいろな苦しみの中、あなたがますます主に対して忠実に服従し続けてゆくようにということです。読者たちはそのように生きていました。だから、なお続けて忠実に生き善を行なって行くようにと励ますのです。私たちが神の前に正しく歩み続けてゆくためには主に対する信頼を学ぶことが必要です。主に信頼して従って行くとき、苦しみや問題が取り除かれることがなくても、神は私たちのうちに平安をくださるのです。説明できない喜びに満たされる、それは神を見上げるからです。状況を見ていたらそのようにはなりません。神への信頼は積極的に善を行なってゆこうとする思いを強めるのです。神への信仰は苦しみの中にあっても「善を行なう」という実を实らせるのです。

2) 神は信頼できる唯一のお方

だから、忠実であり続けるようにと教えます。「**真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。**」と、この「お任せする」ということばは「預ける」という意味を持ちます。自分の宝を安全で信頼のできるところに預ける、信頼のできる手に委ねるという意味です。この当時、銀行などのない時代、自分のお金を預けて置くのに安全な場所はなかったのです。そのため、人が旅に出るときは信頼できる友人にお金を預けて出かけました。信頼されてお金を預かった人は自分の名誉と責任のゆえにそのお金を大切に保管したのです。お金や財産よりももっと大切なもの、自分のたましいをだれに任せるのか？とペテロは言います。自分の永遠をだれに任せるのか？神に任せるのか、自分に任せるのか？ペテロはここで「神」と言わないで「真実であられる創造者」と言っています。これは**神の全能の力**を現わすことばです。神はその力によって全世界を造られた、しかも真実であるゆえに約束を守られる、ゆえにこのお方に任せて生きることが最も幸いなことではないかと言うのです。自分のたましい、いのちを預けるにはここが最も安全なところだと。だから、心配することなく、どのような苦しみがあろうとも神に信頼を置いて、正しいことを為し続けて行きなさい！主であられるキリスト、私たちはこの方に従うことを選択し決心した者ではないか、だから、忠実であり続けるように！というのがペテロの励ましです。

このように主に忠実に従って行くという人生こそ後悔しない人生です。それを決めるのはあなた自身であることを覚えてください。